

令和8年度四国地区高等学校通信制教育研究会 総会並びに研究協議会（愛媛大会） 実施報告書

事項	内 容
事業名	令和8年度四国地区高等学校通信制教育研究会 総会並びに研究協議会（愛媛大会）
期 日	令和8年7月3日（金）
開催場所	学校法人 河原学園 未来高等学校
主 催	四国地区高等学校通信制教育研究会 愛媛県教育委員会
後 援	四国地区高等学校定時制通信制教育研究協議会 愛媛県高等学校教育研究会定時制通信制部会 愛媛県高等学校定時制通信制教育振興会 NHK NHK出版 NHK松山放送局
参加者	14校 37名（来賓、NHK、NHK出版等含む）
実施目的	四国地区の通信制教育に携わる者が、連携を深めるとともに、当面する諸課題について研究協議や情報交換を行うことにより、通信制教育の振興・発展を図る。
実施内容	1 開会行事 主催者挨拶 ① 四国地区高等学校通信制教育研究会副会長 菊池 正敏 氏 ② 愛媛県教育委員会高校教育課長 挨拶 中井 賢哉 氏 来賓挨拶 ① 全国高等学校通信制教育研究会事務局長挨拶 小宮山英明 氏 ② NHK松山放送局長 挨拶 西田 淳 氏 2 放送教育に関する研究発表並びに研究協議 (1) 研究発表「自学自習のための高校講座の活用 ～報告課題の中にNHK高校講座を位置づける～」 香川県立丸亀高等学校 大砂古 美弥 教諭 (2) 研究協議「放送・視聴覚教育を活用した主体的な学びの実現に向けて」 (3) 指導助言 全国高等学校通信制教育研究会 放送教育研究委員 堀内 宏基 氏 (4) NHK情報提供及び意見交換 NHKコンテンツ制作局 第1制作センター 教育・次世代チーフディレクター 津川 明久 氏 NHKエデュケーショナル コンテンツ制作開発センター 教育グループ専任部長 櫛田 晃 氏 3 通信制教育に関する研究協議 (1) 研究協議 ① 通信制高校における学習の質保証と学習意欲の向上をどのように実現するか ② 多様な背景をもつ生徒の社会的自立を支える生徒支援と特別活動の在り方 ③ 多様な進路希望を実現するための進路指導の在り方 ④ 通信制高校教育を支える学校運営と教育体制の在り方 (2) 指導助言 愛媛県教育委員会 高校教育課 指導主事 井上 雄太 氏 4 閉会行事 四国地区高等学校通信制教育研究会副会長挨拶 菊池 正敏 氏
参加費	加盟校：0円 一般参加：0円（参加者なし）

成 果	1. 放送視聴覚教育を活用した主体的な学びの実現 香川県立丸亀高等学校による研究発表「自学自習のための高校講座の活用 ～報告課題の中にNHK高校講座を位置づける～」を通じて、NHK高校講座のQRコードをレポートに掲載し、視聴を前提とした設問を設定することで、生徒の視聴機会が増加し、自学自習の充実につながることが報告された。また、各学校の実践から、メディア学習をレポートや面接指導と関連付け、年間を通じた一体的な学習指導を行うことの重要性を確認した。 2. 通信制高校における学習の質の保障と学習意欲の向上 知識の確認に偏った設問を見直し、思考力・判断力・表現力を育成する記述式問題を充実させるとともに、生徒一人ひとりの学習状況に応じた添削指導を行う必要性を確認した。また、生徒への個別指導の充実や、電子レポートや自動採点システムの導入による教員の業務負担軽減等についても、意見交換した。 3. 多様な背景を持つ生徒の社会的自立を支える生徒支援と特別活動の在り方 不登校経験や発達特性、家庭環境等、多様な背景を持つ生徒への支援について、各学校の実践を共有した。特に、カウンセラーやソーシャルワーカーの活用、医療・福祉機関との連携、保護者を含めた支援など、学校だけでは対応が難しい課題に対する組織的な取組が紹介された。また、特別活動を通じて生徒の社会性や自己肯定感を育成する取組について協議した。 4. 多様な進路希望を実現するための進路指導の在り方 大学・専門学校・企業等と連携した進路指導について、専門学校の教員による職業体験型授業、大学と連携した探究活動や進路ガイダンス、企業の協力によるインターンシップ、ジョブサポートティーチャーを活用した就職支援など、具体的な取組が紹介された。一方、通信制高校では進路未決定のまま卒業する生徒が一定数存在することが共通課題として示された。 5. 通信制高校における学校運営と教育体制のあり方 定時制・通信制を併置する学校における課程間の科目履修や、通学型・通信型・在宅型など多様な学習形態に対応した学校運営について、実践事例を共有した。特に、登校日数が異なる場合でも共通の学習内容と単位認定基準を確保することや、コース間の交流を促進することで特別活動への参加機会を広げ、学校生活への意欲や進路決定につなげる取組が紹介された。また、限られた教職員体制の中で、ICTによる業務効率化を進め、生徒への個別支援に充てる時間を確保することが重要であることを再確認した。
-----	---